小学３年生とのやり取りが楽しい！

柳戸淳吉さん（第Ⅱ期博学連携型）

○市民学芸員に応募した理由は?

元々市内の青木に生まれたんですが、都会へのあこがれから都内へ通勤していたんです。朝早くに家を出て、深夜に帰宅するという毎日でした。地元のつきあいもほとんどしていなかったから、定年になった時に少し地元について勉強してみようかな、と思ったんです。飯能について知らないし学ぶ機会もなかったので、少しは町の発展に寄与して恩返しをしたい、という気持ちもありました。また認知症にならないためにも、社会活動に参加することが大事だと考えたわけです。市民学芸員養成講座も１日ではなく、続けて学ぶ機会があったのでとてもおもしろかったですよ。

○市民学芸員の魅力は?

いろいろな人と話ができるのがまず１番。市民学芸員の活動に参加している人は、優秀な人が多く、そういう人との交わりはとても勉強になる。また、研修会などで、飯能の文化や歴史を学ぶことができるだけでなく、地域の素晴らしい風景のほか、市外の博物館施設の見学ができるのも魅力の１つだと思いますよ。

○博学連携の市民学芸員としてのやりがいは?

毎年１月から２月にかけて、市内の小学３年生が社会科の見学で来て、その対応をするのが一番ですね(39頁)。小学３年生の児童は、こちらが話をすると喜んでくれる、楽しかったという表情がすぐに現れて直に伝わってくる。私も子どものことが好きだから、丁寧に教えると子どもたちも乗ってきてとても楽しいですよ。家の近くを歩いていると、小学生に「あのときの先生だ」と声をかけられることもあるし、前に一度第一小学校へ呼ばれて話をしたことがあったんですが、それに対し子どもたちから御礼の手紙が来た時はてとても嬉しかった。

○今の郷土館についてどう思いますか

今の郷土館は魅力がないと思うんです。収蔵庫にある資料をもっと展示すべきでしょう。「今月の一品」(26頁)はとてもよいが、スペースが限られているのが残念ですね。「一品」ではなく、例えば、「稲作の道具」とか「養蚕の道具」などをテーマに、お金をかけることなく市民学芸員で展示をやってみたい。特別展は毎回楽しませてもらっているけど、それ以外の時期にもう少し人が入るようなことをしないとつまらないんじゃないかな。子どもに向けての展示がないのも残念ですね。

○まだ市民学芸員のなっていない人に

身近な歴史、文化財、昔の人々の生活、飯能の良い所を学ぶことができ、飯能のことがよくわかります。絵を描ける人、技術のある人、木工の得意な人といった色々な人が参加し、話をしてくれるともっと楽しくなります。市民学芸員の活動を盛り上げて飯能の町をもっと元気にしましょう！

小学３年生の見学で子どもたちに説明する柳戸さん

事務局から

平成14年３月の第Ⅱ期市民学芸員養成講座で認定され、現在活動されている方の中では最古参の柳戸さん。養成講座同期の山岸忠義さんと2人で、小学3年生見学のための展示「民家の台所」の、柱や鴨居、棚などのセットを作ってくれました。地元でのわくわく体操指導員、ウォーキング教室のボランティアのほか、東海道、中山道など五街道や沖縄、秩父札所などを歩いたり、百名山に登ったりといろいろなことにチャレンジされているそのパワーに圧倒されました。定年後にとった調理師免許を活かし、毎日の食材探しで買物に行くのが楽しいとか。これからもよろしくお願いします！

市民学芸員の素顔

楽しいことがいっぱいの市民学芸員！

原田恵子さん（第Ⅲ期民俗調査型・第Ⅳ期博学連携型・第Ⅷ期麦作文化探求型）

○市民学芸員に応募した理由は？

私の場合、平成16年2月から養成が開始された第Ⅲ期「民俗調査参加型」への参加が最初です。これは郷土館にある林業関係道具を埼玉県指定文化財にするための基礎調査に携わるものでした。私はその年に森林インストラクターの資格を取って活動していたのですが、その試験科目に林業があり、森林インストラクターとしては参加しなければならないと考えたんです。資格を取るために名栗での枝打ちや間伐の体験もしていたし。ただ、Ⅲ期の活動は道具の手入れをするとか、道具の図を描いたりとかで、そういうのが苦手な私はあまり貢献できなかったなあ。でも、養成講座での講義は、森林インストラクターとしての活動にはとても役に立っています。

○博学連携に参加したのは？

Ⅲ期の養成講座は、既に市民学芸員として活動している人が多く受講していて、新しい人で認定されたのは、私と関根さんだけだったんです。そのうち、博学連携の活動をしている方から人手が足りないから、って誘われて。元々子どもを対象とする活動には関心もあったし。だから私たちの場合、養成講座よりも実務の方が先だったので何か居心地が悪い感じが今でもしています。

○博学連携の市民学芸員の魅力は？

子どもたちが火のしや昔のアイロン体験を楽しみにしているところですね。昔の道具を楽しく使ってくれるお手伝いをするのはとてもやりがいがあることだし、炭の説明では森林インストラクターとして培った知識も活かせます。それだけでなく研修会でいろいろなところに見学へ行ったり、講義を聞くことで見聞が広められるのも魅力の1つかな。

昔のアイロン体験を指導する原田さん

○逆に大変なことは？

とにかく小学校の見学が毎年１月から２月にかけてほぼ毎日、集中的に行われるので、子どもたちとの交流を楽しみにしていても、体力的にはかなりきついし疲れる（笑）。本当は多くの人が参加して、ひとりひとりが無理のない範囲で関わることができるのが一番なんだけど。

○これからどのような活動をしたいですか？

郷土館に自然分野を入れて欲しいとずっと言ってきたので、平成30年度から自然のビジターセンター機能が加わるのはとても嬉しい！私としては、博物館で気軽に自然を楽しんでもらえるような活動のお手伝いができるといいかな。一般の人たちが散策のような気軽さで自然に入り、体験できるような経験ができるといいと思う。

○まだ市民学芸員になっていない人に

市民学芸員は、きちんとした研修を受けて活動するボランティアグループです。いろいろな研修は自己研鑽にもなり、新たな発見もたくさんあります。また、いろいろな人との出会いも多く、楽しいことがいっぱいです。新しい世界が広がりますよ。

事務局から

ほとんど独学で自然の勉強をされたとお聞きし驚きました。今では森林インストラクターの資格を活かして、市内の小学校に出張授業に行ったり、子育て総合センターが主催する「森のようちえん」での自然に触れあうイベントにも関わるなど幅広い活動をされている原田さん。その豊富な学習活動の経験から、当館における子ども対象事業での、子どもの理解力や動き、考え方の予測などについて、いつも非常に有益なアドバイスをいただいて助かっています。その知見の広さにはただただ脱帽です。

市民学芸員の素顔

図書館ボランティアとは一味違う市民学芸員！

仲舘祐子さん

（第Ⅳ期博学連携型・第Ⅷ期麦作文化探求型）

○市民学芸員に応募した理由は？

飯能に住み始めたのは平成５（1993）年の暮れからで、それまでは多摩市に住んでいたんです。その頃は自動車の免許を取ったばかりの時に練習で来たことがある程度でしたが、当時は主人も私も池袋に勤務していたので、池袋まで電車1本で行けるし、いいところだったので飯能に引っ越してきました。ただ住み始めたものの、家にはほとんど寝に帰るだけのような暮らしで地域とのつながりもなく、何かしなければ、と思って平成19年度の市民学芸員養成講座（Ⅳ期）に応募しました。

○博学連携に参加したのは？

本当は図書館のボランティアがしたかったんです。だけど当時の図書館は施設が古くて小さかったものですから、今と違ってそういうシステムがなかった。郷土館での活動なら飯能市のことに関われると思ったのですが、普段は働いているので土・日くらいしか活動できません。そこで窓口で相談してみたところ、出席できるときに参加してもらえれば、と言われたので申込みをしました。博学連携だと、子どもたちの見学の対応ができるし、単なるボランティアでなく研修会などもあって、学習できるのが良いと思いました。

小学３年生の児童に炭の利用について話をする仲舘さん

事務局から

ふだんお忙しい毎日を過ごしていらっしゃる合間を縫って、市民学芸員の活動のほか念願の図書館でもボランティア活動をされている仲舘さん。応募の際、窓口でご相談を受けたとき、市民学芸員もいろいろな方が関わってくれる方がいいと思ったので、一生懸命説得したことを昨日のことのように覚えています。平日に行われる小学3年生の見学対応も、毎回必ず2日か3日都合を付けて参加してくれて本当にありがたいです。図書館のボランティアもありますが、博物館もお見捨てなく適度におつきあいしていただけると嬉しいです。

○博学連携型の魅力は？

市民学芸員の活動では、子どもたちに問いかけると向こうから反応が返ってくるのが楽しいですね。なかにはそうでない子もいるけど、今の子どもたちは知識があって小学3年生でここまで知っているのか、と驚かされることも多いです。また市民学芸員をしている人は地域にずっと住んでいて、年上の方も多く、地域のいろいろなことを教えてもらえるし、人の輪が広がるところもとても気に入っています。また月例会もあるのでみんな仲良しだし、わいわいやりながらいろいろなところへ見学に行ける、大人の遠足のような感じもおすすめのところかな。

○これからどのような活動をしたいですか？

私は古い建築物、なかでも洋風の建築が好きでいろいろなところへ見に行っています。今の図書館のところにあった遠藤新設計の建物も再利用されると良かったんですけど。街中にも古い建物はたくさんありますが、このままだと全部無くなってしまいそうで不安です。歴史的建造物を残すような活動もしてみたいです。それと市民学芸員や博物館の活動ももっと知ってもらいたいですね。そのためには、休日に市民学芸員主体の事業ができれば博物館のＰＲにもなると思います。館報も詳しく活動内容をまとめているので、それが市民に伝わると良いのですが。

○まだ市民学芸員になっていない人に

市民学芸員は、とにかく楽しめる、交流ができるところです。新たな人たちが入ってくると、新しい意見が出てきたりして、活性化します。ぜひ多くの方に参加してもらいたいです。

市民学芸員の素顔 Profile of Citizen Curator

地域の歴史を次の世代に伝えていきたい。

双木幸三さん（第Ⅴ期博学連携型・第Ⅷ期麦作文化探求型）

○市民学芸員に応募した理由は？

長男がちょうど小学３年生になったことがきっかけです。その前から子どもを連れて国立科学博物館や科学未来館に行っていましたが、そこのガイドさんがとても楽しそうに活動していたのが印象的でした。ただ仕事があって平日の活動はほとんどできないためどうしようかなって迷っていたら、館の職員の方が「できる時に参加していただければ大丈夫ですよ！」と言ってくれたことが背中を押してくれました。

○そもそも博物館の魅力とは何だと思いますか？

前から博物館は大好きで、１人の時は上野の東京国立博物館や美術館にもよく行っていました。博物館に行けば自分が知らなかったことをモノを通して知ることができるからです。大学の時に市内で発掘調査のアルバイトをしていたことがありましたが、その時に発掘調査を担当していた柳戸さん（現図書館長）や熊澤さん（現生涯学習課文化財担当リーダー）から聞いた話が面白く、その後東京国立博物館の考古の展示を見に行った時は本当に感動しましたよ！ 歴史系の博物館は、昔の物に触れることによって、地域に人が住み続けている歴史の中に自分も存在しているんだ、ということがわかることですかね。

石臼の体験で子どもたちの話を引き出す双木さん

事務局から

毎年、数日は仕事を休んで小学3年生の見学対応に参加して下さっている双木さん。本当にお忙しいところありがとうございます。建築にもとても詳しく、私たちはともすると古ければ古いほどよい、というふうに思ってしまいますが、街並みの景観の中でのその建物の意味をもっと考えるべきだとのお話は、多様な視点から地域を見ることの大切さに気づかせて下さいました。男性の市民学芸員では最年少ながら、博物館の楽しさをとてもよくご存じの双木さん。市民学芸員としてそれを来館者にどんどん伝えていって下さい！

○地域との関わりについて

私の家は元々古くからの商家で、子どもの時から地域の人にそれを言われるのが嫌で嫌で仕方がなかったんです。大学に入っても地域と関わりあいを持とうとは思いませんでした。それが子どもができたことと親が年を重ねていくことによって意識が変わりました。墓にある古い墓石を見ると先祖を意識せざるを得ませんし、もっと地域のことを知らなくちゃ、ってね。

○市民学芸員のやりがいは？

養成講座に参加している間はあまり感じなかったのですが、市民学芸員になって活動や研修会に参加して地域の歴史や文化を学んでいくなかで、過去の記憶や生活の様子などを自分の世代がつなげていかないと、次の世代に伝わっていかないのではないか、と思うようになりました。市民学芸員の中には飯能生まれの飯能育ちの方もいるので、その方々のもっているものを伝えること、それが自分たちの役割なんだと。

○今後の市民学芸員の活動について

以前は「竹の水鉄砲で遊ぼう」や、「まゆだま作り」がありましたが、今はそれも無く休日の活動の機会が減っています。それだと自分が活動できる機会があまりないので、月1回でもいいから何かできないかと考えています。そういう場があった方が逆に若い人を取り込めるのではないでしょうか。その意味でいうと、子どもたちを対象とした事業にその保護者をどのように巻き込むかがポイントなのではないかと。今は地域の活動になかなか若い世代が参画しないようなので、そういった活動に関わってくれるようになれば地域の歴史を学ぼうという人も増えてくると思いますよ。